

県北地域有機農業産地見学会

～常陸大宮市の露地有機野菜（ジャガイモ）ほ場で実施～

茨城県県北農林事務所と常陸大宮市は、付加価値を高めた農産物生産による農業の振興を図るため、有機農業（※）を推進しています。

今回、その一環として、有機農業への理解の醸成と有機農産物の普及促進を図ることを目的に、地域住民、学校給食関係者、有機農産物の流通関係者等を対象とした産地見学会を開催しました。

※有機農業：化学肥料、農薬及び遺伝子組換え技術を原則利用しない環境にやさしい農業。

－有機農業産地見学・収穫体験会（ジャガイモ）－

- ◇ 日時：令和6年6月19日（水）午後1時30分～
- ◇ 場所：常陸大宮市 三美地区
- ◇ 主催：茨城県県北農林事務所
（共催）常陸大宮市
株式会社JA常陸アグリサポート
- ◇ 参加者：市民・学校給食、有機農産物流通関係者
など約27名



【株式会社 JA常陸アグリサポート 鈴木所長】

- JA常陸アグリサポートは、平成27年から野菜栽培を始め、令和4年度から有機農業の取り組みを開始。有機農業アドバイザーの指導を受け、土壌分析・有機JASの基準に適合した資材で栽培。
- 有機農業に取り組んだきっかけは、常陸大宮市やJA常陸の学校給食への有機農産物提供に対する強い思いに共感したため。
- 現在、役員（11名）従業員（56名）季節雇用者（465名）で、米、野菜の生産・販売や農作用受託、施設運営を行っている。出荷先は市（学校給食）やJA直売所など。
- 栽培方法：種いもはあらかじめ、芽出しすると発芽がよい。カット面を上にして植えつける（遅霜、青いも対策）。土づくりは、牛ふん堆肥施用や緑肥のすき込みを行った。また、病害虫防除や雑草対策として畝間に麦を敷いた。



【市民の声】

- 質問：有機栽培は、無農薬ということか。
回答：化学合成された農薬や肥料を使わないで栽培している。
- 質問：ジャガイモに虫くいや病害が見られないが、農薬は使っていないのか。
回答：馬ふん堆肥を投入するなどして、土づくりに力をいれている。病害の発生は少なく、化学合成された農薬は使用していない。



県北地域では、現在、有機農業に関する多様な取組が展開されています。産地見学会でいただいた貴重なご意見等も参考に、関係機関と連携を図り、引き続き有機農業の取組を推進してまいります。